

開校記念日について

令和3年12月1日

校長 上田 篤也

豊田中学校は12月1日が開校記念日です。それは、51年前に現在の地に戸塚中学校豊田分校として開校したからです。

戸塚中学校豊田分校が開校するまで

昭和33(1958)年6月

地域の方々(建設促進会)が中学校建設を市役所に陳情。

昭和42(1967)年4月

建設促進会を建設準備会に改組。

昭和44(1969)年3月

建設用地買収。

4月

建設準備会を建設委員会に改組。

昭和45(1970)年11月25日

校舎完工、引き渡し(一期工事)

11月30日

机・椅子の移動完了。

12月1日

分校開校、授業開始。

昭和46(1971)年4月1日

豊田中学校独立開校。

分校独立の頃(「創立5周年記念誌」より)

教諭 田村 敦子

戸塚中でのお別れ式後、体育館の裏で、大声で泣いていた二年生を「開拓者の意気込みで」となだめ、気持ちの転換を求めて分校にうつったものの、広い校庭の片隅で、二百五十余名生徒と一台のオルガンを持ち出しての開校式は、まったく山の中の分教場という言葉ぴったりで、私たち教員もちょっと複雑な気持ちでした。不十分な教材教具、部活のできない悩み等、大小とりまぜての不満はいろいろあったようですが、生徒たちは明るく素直にのびのびと生活をしていました。設備もすべて整い、生徒数も増大し、五年前のことなど、まるで別世界のようなのですが、逆に懐かしさが捨てきれないのは、それにかわる精神的な「何か」があったような気がしてなりません。

分校独立の頃(「創立5周年記念誌」より)

教諭 山田 昭

(当時「校友の歌」のちの「校歌」作曲者)

住み慣れた本校の校門を後に、涙を一杯溜めて生徒たちがとぼとぼと出て行く。そして、その日の午後には、彼等は新しい校舎の中で到着する椅子や机を一生懸命教室へ運んでいた。

一夜明ければ十二月一日、広い校庭の片隅では六組の生徒と十人の先生によってささやかな開校式が行われた。午後には祝賀会が開かれ、この日を待ち望んでいた地区の人たちの喜びの声は校舎に満ち溢れた。

授業が始まり、本校との間に毎日幾時間分かの先生の往来が行われた。また体育は組毎で男女は一緒であった。本校の狭い校庭しか知らない生徒たちは、いつも広い校庭の端の方に固まって遊んでいた。怖い夜道を避けて生徒も先生もみんな明るい内に帰って行った。今も残る分校時代の思い出である。



校門に向かう正面の道路(造成中)



建設中のA棟、職員玄関が見えます